

平成26年3月期 第3四半期
決算補足説明資料
(連結)

平成26年2月7日

目次

中期経営方針「事業構造改革」の概要	… 3	補足資料	
事業構造改革による損益構造の変化	… 4	業績予想(通期)	…16
事業構造改革の推進状況と当期経営方針	… 5	サービス別売上高予想(通期)	…17
損益計算書	… 6		
サービス別売上高	… 7		
営業費用	… 8		
損益計算書(四半期推移)	… 9		
サービス別売上高(四半期推移)	…10		
営業費用(四半期推移)	…11		
貸借対照表	…12		
キャッシュ・フロー	…13		
お問い合わせ	…14		

中期経営方針「事業構造改革」の概要

中期経営方針

(平成24年3月期 開始)

新商材クラウドパッケージの販売開始を機に実行する
当社グループの「**事業構造改革**」の推進

事業構造改革

安定したストック型ビジネスへの転換に向けた改革

ビジネスモデル改革

主力商材変更により、
ビジネスモデルをフロー型からストック型へ転換

損益構造改革

収益及びコストの両面から構造改革に取り組み、
損益構造を数年間で抜本的に改革

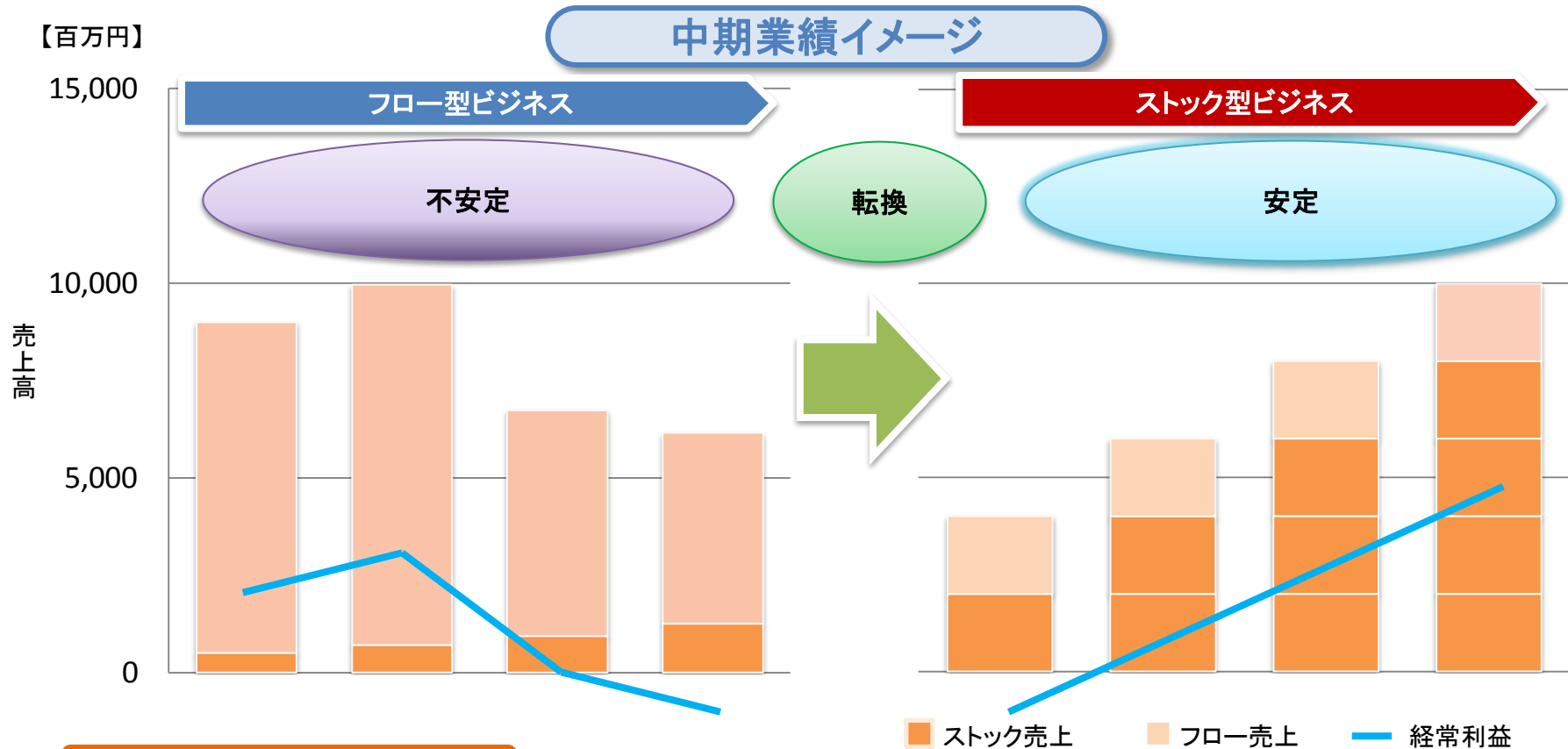
収益構造改革

ストック型ビジネスへの転換により、
中期安定的な収益構造へ転換

コスト構造改革

営業費用(売上原価及び販管費)の最適化により、
コスト構造を改善

事業構造改革による損益構造の変化



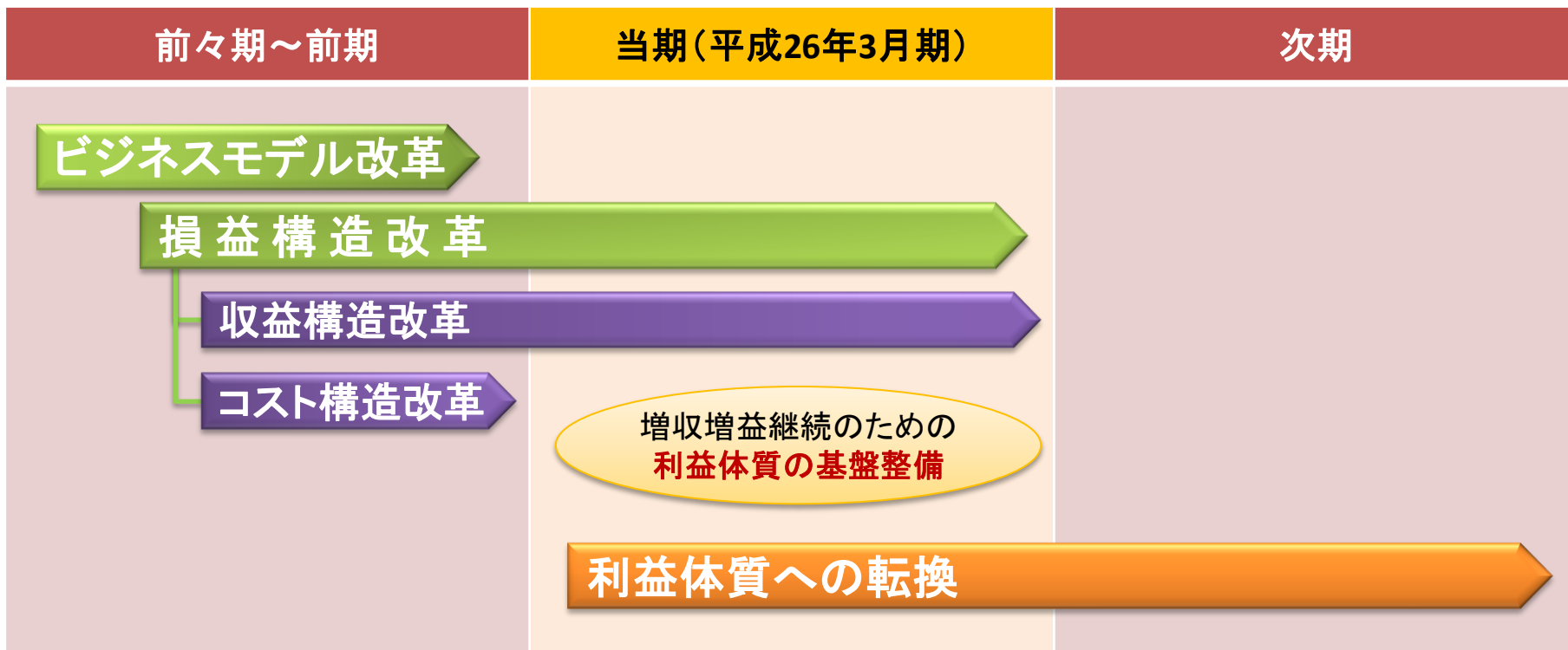
売上高(中期業績イメージ)

ストック型ビジネスへの転換期において、**一時的に減少** その後はストック売上が積み上がり、**安定成長**

経常利益(中期業績イメージ)

売上高減少期において、**短期的に赤字を計上** その後は売上高の成長に合わせて**安定的に利益確保**

事業構造改革の推進状況と当期経営方針



経営方針

事業構造改革の完遂と利益体質への転換

損益計算書

事業構造改革の進展等に伴い、**損益が大幅に改善し、各区分利益が黒字化**

【単位:百万円】	H25.3 3Q累計	売上比	H26.3 3Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上高	3,118	100.0%	3,374	100.0%	+8.2%	+255
売上原価	865	27.7%	802	23.8%	△7.2%	△62
売上総利益	2,253	72.3%	2,571	76.2%	+14.1%	+318
販管費	2,612	83.8%	2,504	74.2%	△4.1%	△108
営業利益(△損失)	△359	△11.5%	67	2.0%	—	+426
経常利益(△損失)	△175	△5.6%	92	2.7%	—	+268
四半期純利益(△純損失)	△194	△6.2%	79	2.4%	—	+274

- ▶ ホームページソリューションの売上の増加等により、**売上高が8.2%増加**
- ▶ 一方で、コスト最適化の効果等により、**営業費用が4.9%減少**
- ▶ 結果、事業構造改革の進展等に伴い、**損益が大幅に改善し、各区分利益が全て黒字化**

サービス別売上高

ホームページソリューションの**ストック売上**に加え、**フロー売上**も**堅調に推移**

【単位:百万円】	H25.3 3Q累計	構成比	H26.3 3Q累計	構成比	対前期 増減率	対前期 差額
ホームページソリューション	2,583	82.8%	2,900	86.0%	+12.3%	+317
ストック売上	1,036	33.2%	1,132	33.5%	+9.2%	+95
フロー売上	1,546	49.6%	1,768	52.4%	+14.4%	+221
IT支援	535	17.2%	473	14.0%	△11.5%	△61
売上高	3,118	100.0%	3,374	100.0%	+8.2%	+255

※1:ホームページソリューションは、旧商材ITパッケージと新商材クラウドパッケージの売上高を示します。

※2:ストック売上は、サービス料(月額課金)の売上高を示します(前期・当期ともに、旧商材と新商材の売上です)。

※3:フロー売上は、初期導入費用(導入初月に一括計上)の売上高を示します(前期・当期ともに、新商材のみの売上です)。

※4:IT支援は、ヤフー商材、WEB広告、WEB制作及びその他の売上高を示します。

- » ストック売上比率の高いクラウドパッケージの契約アカウント数の増加等により、**ストック売上は9.2%増加**
- » また、営業生産性の向上等により、**フロー売上も14.4%増加**
- » 結果、商材・サービスの見直しにより、IT支援の売上は減少したものの、**売上高が8.2%増加**

営業費用

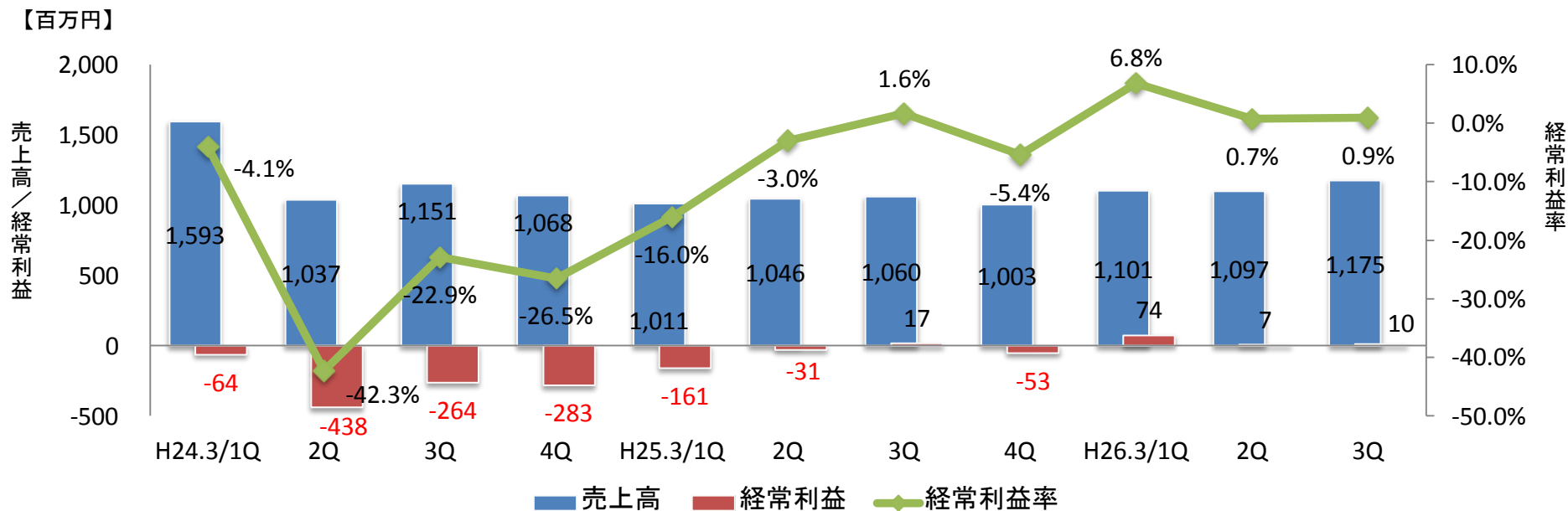
増収にもかかわらず、売上原価も販管費も減少

【単位:百万円】	H25.3 3Q累計	売上比	H26.3 3Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上原価	865	27.7%	802	23.8%	△7.2%	△62
人件費	1,651	53.0%	1,532	45.4%	△7.3%	△119
地代家賃	177	5.7%	180	5.3%	+1.4%	+2
旅費交通費	158	4.0%	174	5.2%	+10.5%	+16
その他販管費	624	21.1%	617	18.3%	△1.2%	△7
販管費	2,612	83.8%	2,504	74.2%	△4.1%	△108
営業費用	3,478	111.5%	3,307	98.0%	△4.9%	△170

- » コスト圧縮の推進等により、**売上原価が7.2%減少**
- » 加えて、前期に取り組んだコスト圧縮効果が発揮されたことにより、**販管費も4.1%減少**
- » 結果、コスト構造改革の進展等に伴い、**営業費用は4.9%減少**

損益計算書(四半期推移)

前四半期比で営業利益は減少したものの、**3四半期連続での黒字化を達成**



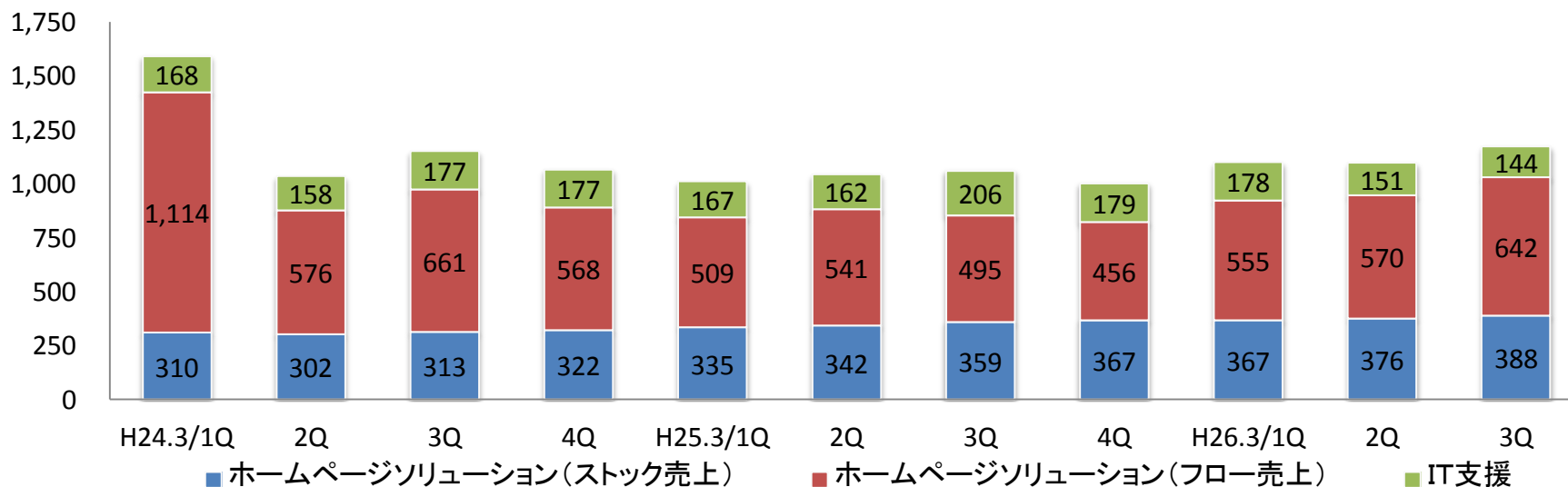
第3四半期の状況 (前四半期比較)

- » 売上高は増加したものの、営業費用の売上に対する比率が高まったことにより、**営業利益が減少**
- » しかしながら、営業外収支の改善により、**経常利益は横ばい**
- » 結果、事業構造改革に着手して以来初の**3四半期連続での黒字化を達成**

サービス別売上高(四半期推移)

ホームページソリューションの**ストック売上もフロー売上も前四半期比で増加**

【百万円】



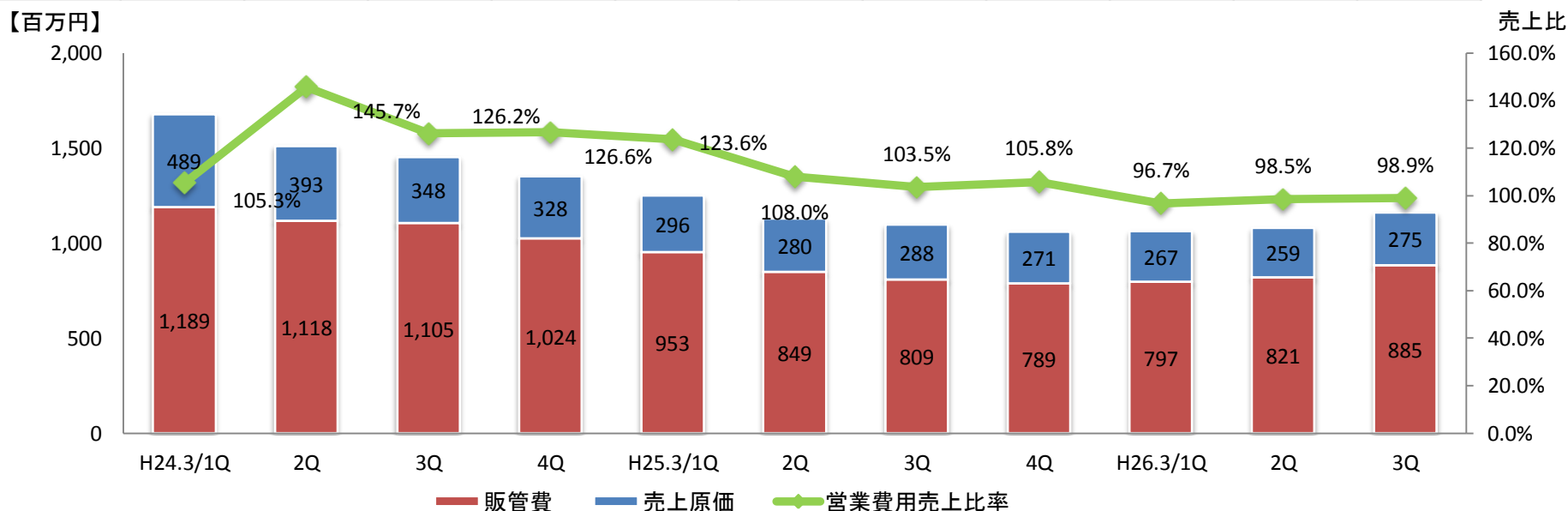
第3四半期の状況（前四半期比較）

- » ストック売上比率の高いクラウドパッケージの契約アカウント数の増加等により、**ストック売上が増加**
- » また、営業生産性の向上等により、**フロー売上も増加**
- » 結果、商材・サービスの見直しにより、IT支援の売上は減少したものの、**売上高は7.0%増加**

営業費用(四半期推移)

営業稼働要員の増員等により、**前四半期比で増加**

営業費用	1,678	1,511	1,453	1,352	1,250	1,129	1,098	1,060	1,064	1,080	1,161
売上比	105.3%	145.7%	126.2%	126.6%	123.6%	108.0%	103.5%	105.8%	96.7%	98.5%	98.9%



第3四半期の状況（前四半期比較）

- » 営業稼働人員を大幅に増員し、次期以降の利益の源泉となるストック売上の積み上げを推進する取組みを開始したこと等により、**販管費が7.8%増加**
- » 結果、売上原価も増加したため、**営業費用は7.5%増加**

貸借対照表

純資産が増加し、財務体質の改善が進展

【単位:百万円】	H25.3末	構成比	H25.12末	構成比	対前期末 増減率	対前期末 差額
流動資産	1,708	56.3%	1,890	61.3%	+10.7%	+182
固定資産	1,323	43.7%	1,192	38.7%	△9.9%	△130
資産 合計	3,032	100.0%	3,083	100.0%	+1.7%	+51
流動負債	882	29.1%	831	27.0%	△5.8%	△50
固定負債	3	0.1%	3	0.1%	±0.0%	±0
負債 合計	886	29.2%	835	27.1%	△5.7%	△50
純資産 合計	2,145	70.8%	2,247	72.9%	+4.8%	+102
負債・純資産 合計	3,032	100.0%	3,083	100.0%	+1.7%	+51

- » 現金及び預金の増加等により、**流動資産が増加**
- » ソフトウェアの減少等により、**固定資産は減少**
- » 四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、**純資産が増加**

キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローの黒字化等により、**現金及び現金同等物が増加**

【単位：百万円】	H25.3 3Q累計	H26.3 3Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	△94	237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105	△83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△500	22
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△699	177
現金及び現金同等物の期末残高	1,367	1,501

- » 営業キャッシュ・フロー: 税引前四半期純利益の計上等により、**前期比で大幅に改善し、黒字化**
- » 投資キャッシュ・フロー: 主力商材の開発継続推進等により、前期と同水準の無形固定資産を取得
- » 財務キャッシュ・フロー: 前期は短期借入金の返済を実施。当期は期初より借入金無し

お問い合わせ先

株式会社アイフラッグ 管理部 (IR担当)

Tel 03-5733-4492

Mail ir@iflag.co.jp

IRインフォメーション

株式会社アイフラッグ IRページ

<http://www.iflag.co.jp/ir.html>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が入手している情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により、本資料に記載されている情報と大きく異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料の業績見通し等のみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製、または転送等を行われぬようお願いいたします。

補足資料

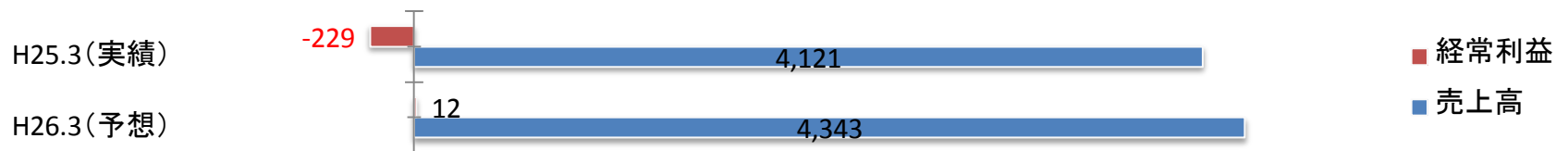
— 平成26年3月期通期業績予想 —

(平成 25 年5月14日公表分)

当社グループにおきましては、数年かけて推進してきました事業構造改革が結実し、当初の想定よりも早く、当期第2四半期連結累計期間において黒字転換を果たしております。このような状況を踏まえ、当社グループといたしましては、平成25年10月31日付の「平成26年3月期第2四半期(累計)業績予想の修正に関するお知らせ」において開示しましたとおり、主力事業であるITソリューション事業の成長ドライブをさらに上げていくために、営業稼働人員を大幅に増員し、次期以降の利益の源泉となるストック売上の積み上げを推進していく予定であります。そのため、通期業績予想につきましては、当初の見通しを据え置いております。

業績予想(通期)

【単位:百万円】	H25.3通期 (実績)	売上比	H26.3通期 (予想)	売上比	対前期 増減率	対前期 増減額
売上高	4,121	100.0%	4,343	100.0%	+5.4%	+221
営業利益(△損失)	△417	△10.1%	5	0.1%	—	+422
経常利益(△損失)	△229	△5.6%	12	0.3%	—	+241
当期純利益(△純損失)	△264	△6.4%	0	0.0%	—	+264

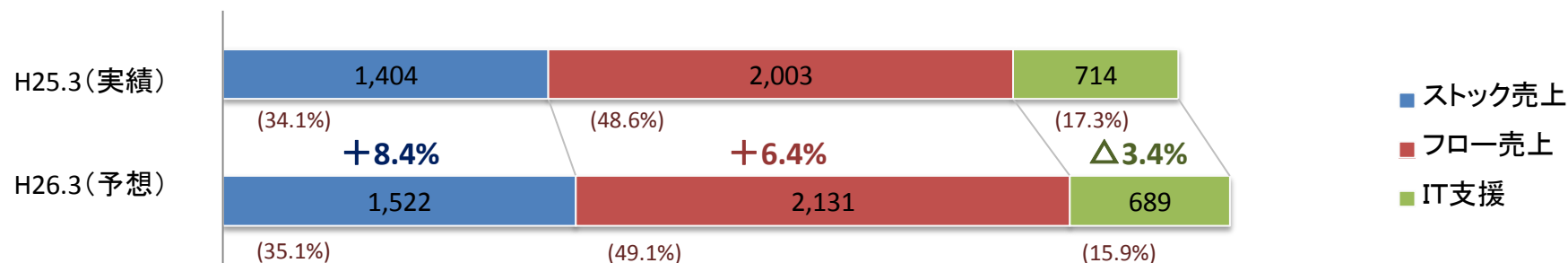


通期の予想 (H25.3期比較)

- » 収益構造改革の進展等により、**売上高は5.4%増加の見込み**
- » 一方、コスト構造改革の進展等により、**営業費用は4.4%減少の見込み**
- » 結果、損益が大幅に改善し、**各区分利益が黒字化する見通し**

サービス別売上高予想(通期)

【単位:百万円】	H25.3通期 (実績)	構成比	H26.3通期 (予想)	構成比	対前期 増減率	対前期 増減額
ホームページソリューション	3,407	82.7%	3,653	84.1%	+7.2%	+246
ストック売上	1,404	34.1%	1,522	35.1%	+8.4%	+118
フロー売上	2,003	48.6%	2,131	49.1%	+6.4%	+128
IT支援	714	17.3%	689	15.9%	△3.4%	△24
売上高	4,121	100.0%	4,343	100.0%	+5.4%	+221



通期の予想 (H25.3期比較)

- » ストック売上の比率の高い新商材の契約顧客アカウント数の増加等により、**ストック売上が8.4%増加の見込み**
- » 加えて、営業生産性の向上等により、**フロー売上也6.4%増加の見込み**
- » 結果、IT支援はほぼ同水準の見込みであるため、**売上高は5.4%増加する見通し**